

別紙様式

令和4年度倉橋中学校区研究推進計画

校番31 倉橋小学校
校長名 高越 久美子

- 1 学校教育目標
かかわる つながる 学び続けるひと～未来社会に役立つことを見据え～
- 2 目指す児童生徒像
主体的に学び合い、論理的に表現する児童生徒
- 3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性
後期	構造化され生きて働く概念的な知識を身に付け、自在に活用することができる。	実社会・実生活の中から見出した課題について、多角的・多面的に考察し、論の展開や表現の仕方を工夫して、効果的に自分の考えを表現することができる。	探究的な学習の過程において、実社会・実生活の課題を自分のこととしてとらえ、自ら計画を立て、協働的に解決に向かい、社会に貢献しようとしている。
中期	学習した内容や方法を正しく理解し、実生活や新たな課題の解決に活用することができる。	実社会・実生活の中から課題を発見し、集めた情報の中から必要な情報を整理・分析して考え、根拠を明確にしながら、筋道を立てて自分の考えを表現することができる。	探究的な学習の過程において、実社会・実生活の課題を発見し、目標をもって友達と協力しながら解決に向かい、社会とつながろうとしている。
前期	学習した内容や方法を正しく理解し、課題解決に活用することができる。	身のまわりから課題を発見し、集めた情報から考え理由を明らかにしながら、順序よく自分の考えを相手に伝えることができる。	自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを知るとともに、ちがう意見や友達の考えを大切にしながら、身のまわりのことと関わろうとしている。

4 研究主題等

(1) 主体的に学び合い、論理的に表現する児童生徒の育成

～豊かな対話から深い学びへつなぐ授業づくりと自己有用感を高める生活づくりを通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本学園では、令和2年度より、「主体的に学び合う児童生徒の育成～豊かな対話から深い学びへつなぐ『しかけ』の工夫を通して～」を主題に設定し、学力向上部会と生活力向上部会を中心に研究を進めてきた。

その中で、学力向上部会では、各学年・各教科等で研究主題に迫れるよう、授業サイクルにおいて、「考える・学び合う」場面に重点を置き、対話を通して深い学びにつなぐための指導の工夫を「しかけ」として、授業づくりを行った。加えて、9年間で育成を目指す児童生徒の具体の姿を明確にし、カリキュラムマップに基づき、主体的な学びを促す単元開発を行い、「学びのデザインシート」にまとめることができた。

その結果、児童生徒が自分の考えを表出する場面が増え、「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている」のアンケートにおいて、肯定的評価を行った生徒は100%、児童は84.2%でありともに前回は上回った。したがって、主体的に学習に参加し、自分の考えを深める児童生徒が増加したことで研究の成果は見られた。しかし、学力の伸びにつながっているとは言えず、学力調査において下記のような課題が明らかになった。特に、「目的に応じて、自分の考えの根拠を明らかにして、論理的に表現する力」を付け切れていないことがみえてきた。

生活力向上部会では、児童生徒の実態から、自立した生活基盤づくりを目指し、メディア視聴時間のセルフコントロールを促す取組を行ってきた。その結果、「生活基盤の確立に係る肯定的回答の割合」は、児童では10.9%、生徒では5.6%の伸びが見られたものの、生活改善ができていない児童生徒が、固定化されている傾向にあった。また、協働し課題を解決していく過程を大切にされた地域や異学年等との交流を行った結果、自尊感情の高まりはあったが、「自分が他者から認められている」「役に立っている」と感じている児童生徒の割合は高いとは言えず、自己有用感を高めるまでには至っていなかった。

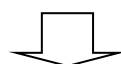
このことから、今年度も引き続き、豊かな対話から深い学びへつなぐ「しかけ」を工夫した授業づくりと、自律と協働により自己有用感を高める生活づくりを通して、「主体的に学び合い、論理的に表現する児童生徒の育成」とすることを目指し、本研究主題を設定した。

〈令和3年度 全国学力・学習状況調査等の結果〉

	倉橋小学校正答率（全国）		倉橋中学校正答率（全国）
国語	69.0% (64.7%)	国語	60.0% (64.6%)
算数	67.0% (70.2%)	数学	53.0% (57.2%)

〈結果分析による重点課題〉

	小学校	中学校
国語	<ul style="list-style-type: none"> 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。 自分の主張が伝わるように、文章全体の構成や展開を考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して書くこと。 相手や場に応じて敬語を適切に使うこと。
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> 帯グラフ等を用いた複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を持って記述すること。 速さを求める除法の式と商の意味を理解していること。 	<ul style="list-style-type: none"> データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。



※小中一貫の取組

(国語) 文章表現の目的に合ったキーワードを整理したり、条件に合った文章を書いたりする活動を繰り返す。また、文章の構成や段落相互の関係に注意して各場面を増やす。

(算数・数学) 問題の解き方などの手順や理由を説明する場面で、既習の算数・数学的な表現を使い、根拠を明確にして表現する活動を繰り返す。

(3) 研究仮説

豊かな対話から深い学びへつなぐ「しかけ」を工夫した授業づくりと、自律と協働により自己有用感を高める生活づくりを行っていけば、主体的に学び合い、論理的に表現できる児童生徒が育成できるであろう。

5 研究内容

〔学力向上部会〕

豊かな対話から深い学びへつなぐ授業づくり

○課題発見・解決の過程を位置付けた単元づくり

(カリキュラムマップと「学びのデザインシート」の活用)

○豊かな対話から深い学びへつなぐ「しかけ」を工夫した授業サイクル

(自己内対話⇒他者との対話⇒自己内対話・ICTの効果的な活用)

○言語活動の充実による学びの土台づくり

○授業改善に向けた合同研修，小中接続を見据えた協働授業

〔生活力向上部会〕

自律と協働により自己有用感を高める生活づくり

○小中合同行事の充実（よさを認め合い，学びを共有）

○地域や異学年等との交流の充実

(地域との関わりを大切に活動，

施設一体型小中一貫校ならではの日常的な交流)

○主体的な生活改善に向けた取組（目標設定と振り返り，評価）

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
①児童生徒の学力が向上したか	標準学力テスト (小：国語・算数) (中：国語・数学・英語)	全国平均を上回る学級の割合	(小) 91% (中) —	(小・中) 80%以上
②主体的に学び合い，論理的に表現することができたか ア表現に関すること イ協働に関すること	児童生徒アンケート 教師アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合 教師の肯定的評価の割合	児童生徒 (小) ア78.4% イ77% (中) ア73.2% イ85.7% 教員 (小・中) —	(小・中) 児童生徒 80%以上 教員 85%以上
③児童生徒の自己有用感は向上したか ア自己肯定感 イ自己有用感	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	(小) ア70% イ67.5% (中) ア85.7% イ73.2%	(小) 80%以上 (中) 85%以上
④生活改善をすることができたか ・セルフコントロールに関すること	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	(小) 65% (中) 70.7%	(小) 75%以上 (中) 80%以上

※標準学力調査は1月に実施する。児童生徒アンケート・教員アンケートは7月・12月に実施する。

アンケートの具体例 ※ () は教員用

②ア「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。(させています。)」

イ「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしています。(させています。)」

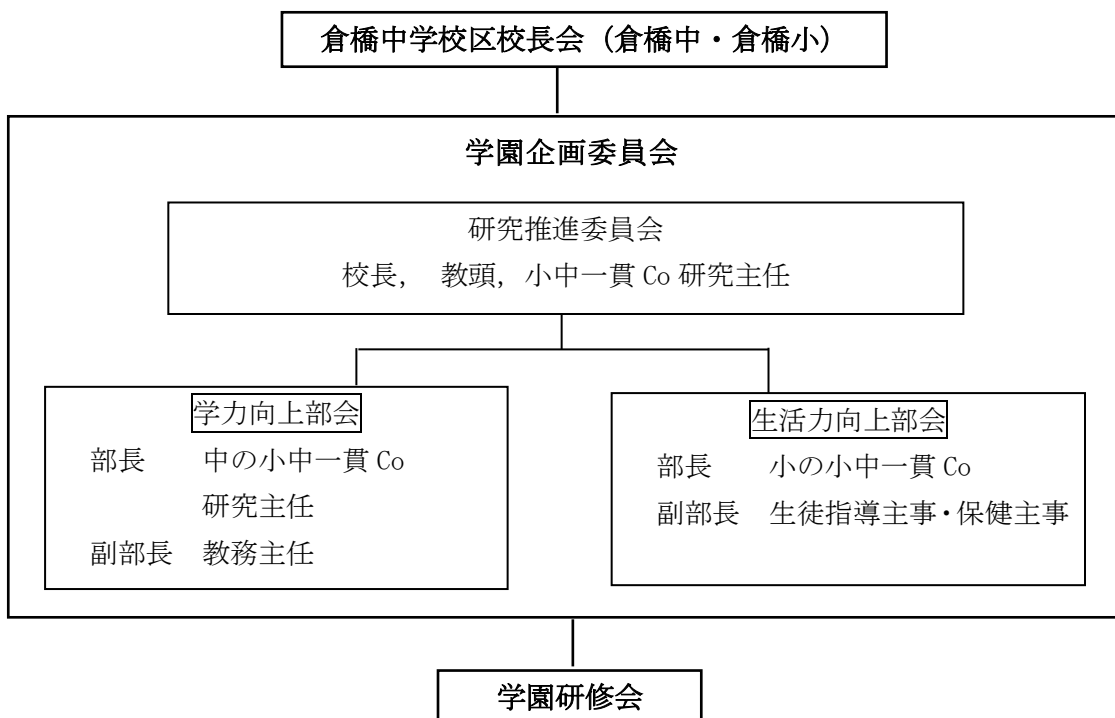
③ア「自分には、よいところがあります。」

イ「自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。」

④ア「スマホやタブレット、ネットゲーム等は、家庭や学校で決めたルールを守って使用しています。」

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施

乗り入れ授業等 (中→小)

対象学年：第5・6学年 (各学年あたりの時数)

- ① 体育科 (第5学年 10時間, 第6学年 10時間)
- ② 算数科 (第5学年 6時間, 第6学年 6時間)
- ③ 理科 (第5学年 10時間, 第6学年 10時間)
- ④ 図画工作科 (第5学年 6時間, 第6学年 6時間)

8 推進計画

月 日	研修内容	
	倉橋中	倉橋小
4月12日(火)	全体研修(今年度の方向性の確認)	
5月	授業研究	
6月15日(水)	全体研修(中学校授業) 講師 広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 木下 博義 先生	
6月	授業研究	授業研究
7月	授業研究	授業研究
8月 3日(水)	全体研修(理論研修) 全国学力調査結果の分析に基づいた方策	
9月	授業研究	
10月17日(月)	全体研修(小学校授業) 講師 広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 木下 博義 先生	
10月	小中一貫だより作成 第1号	
11月	授業研究	授業研究
1月	授業研究	
2月20日(月)	全体研修(小中合同研修会(今年度の成果と課題, 次年度に向けて))	
3月	小中一貫だより作成 第2号	

※ 全体研修の前には、学園企画委員会(研究推進委員会、学力向上部会・生活力向上部会)をもって、事前協議・準備を行う。

9 その他

- ・小中一貫だより(年2回発行予定)
- ・小中合同行事
運動会, 桂浜清掃 等

※研究構想図、カリキュラムマップを添付する。